

貞山運河活用地域活性化へ

社団法人設立冊子や催し誘客図る



仙台湾沿いに延びる貞山運河(2月1日、仙台市で)

阿武隈川河口から塩釜湾に延びる「貞山運河」を活用して地域活性化を目指す一般社団法人「貞山運河ネット」の設立総会が6日、名取市閑上で開かれた。

貞山運河は全長31・5キ。仙台藩初代藩主・伊達政宗が仙台の城下町を建設するため、阿武隈川流域から木材を運ぶ輸送路として開削を始めたとされる。

同ネットは約40の法人・団体、約30人の個人で構成。

運河で舟遊びイベントを開催したり、歴史を紹介する冊子やエリアマップを作成したりして周辺地域への誘客を図る。今年の夏には丸

森町で伐採した材木を舟で運び、運河の役割を学ぶ催しの開催を目指している。会長に就任したゆりあげ港朝市協同組合の桜井広行

理事長は「まずは地元の人に貞山運河を知ってもらい、やがては貞山運河、伊達政宗を地域のブランドにしたい」と語った。